新聞記事の効果的活用

学校名　七郷小学校　　**氏名**　亀崎　英治 小　学校　４・５・６　年版　　**単元名**　復興へ今を力強く　Ｐ　１２～１３ **教科・領域名**　６年・総合的な学習の時間　　時間　４５分	
主な学習活動　（実際に行った活動）	指導の実際
１　震災で発生した課題を話し合う。 震災によってどんな問題が出てきましたか。 ・津波によるがれきを処理しなければならない。 ・家を失った人たちは，今も仮設住宅に暮らしている。 ・塩害，放射能の汚染問題，風評被害など	・４年総合ではなく，第２章３「未来へつなぐ」とセットの教材として６年総合で扱った。 ・地震と津波によってどんな被害が生じ，今も続いているかを考えさせた。
２　復興に向けた仙台市の取組を知る。 復興に向けて仙台市はどんな取組をしているのでしょうか。 （１）震災がれきの処理 ・がれき置き場と焼却場を建設して処理を進めた。 ・がれきの処理が予定よりもはやく終わった。 ・がれきの多くがリサイクルされる。 （２）住まいの確保と移転 ・避難所生活から応急仮設住宅（プレハブ・借り上げ）での生活になった。今も続いている。 ・復興公営住宅や集団移転住宅の建設が始まった。 ・仮設住宅に住む人たちの声を聞きながら進めている。	・副読本を読んだ後，**新聞記事**や**写真**を補助資料として提示して今の状況を把握させた。 （１）仙台市のがれき処理完了の**新聞記事** （２）復興公営住宅の**写真** （３）移転対象区域図（仙台市復興事業局資料） 仙台市荒井の復興公営住宅
３　被災者の願いを生かした町づくりを考える。 仮設住宅の人たちは，どんな願いを持っているのでしょうか。 ・早く仮設住宅から出て，元の生活を取り戻したい。 ・以前の場所に戻りたいけれど，移転対象地区になっていて，家を建てることができなくなってしまった。 ・親しい人たちとともに，同じところに移転したい。 ・いろいろと免除されるが，それでもお金がかかってしまう。 **河北新報データベースを活用し，新聞記事を補助資料として使用した。**	・仮設住民の方々が製作した「復興かえる」を提示して，ふるさとの再建に向けて歩み出した人たちの思いを想像させた。 ・副読本を読んだ後，**新聞記事**を補助資料として提示した。 （４）集団移転の意向調査の**新聞記事** （５）被災者の声の**新聞記事** ・被災者の声を聞き入れながら復興公営住宅等の建設が進められている一方で，移転場所や資金などの課題もあることに気付かせるようにした。 ・「自分たちのこれからの生活のあり方」の代わりに，「被災者の思いを取り入れた町づくりの必要性」を確認した。